本興寺だより

令和二年
九月
第二一三号

「衆生の心けがるれば土もけがれ、心清ければ土も清とて、浄土と云い穢土と云うも土に二つの隔てなし。ただ我らが心の善悪によると見えたり」

（宗祖　一生成仏鈔）

安倍総理が辞任されました。一国の総理となればその責任と心労は大変なものがあると思いますが、歴代最長の在任期間を務められたことは、賛否の是非はあっても敬意を表したいものです。総理大臣は国内外の政治・外交・経済等幅広い分野の政策や課題に立ち向かわなければならず大変ですが、私達は自分のことや家族・仕事など周囲のことを考えていればそれでよいのです。悩みや心労の規模は雲泥の差がありますが、自分の心配事に総理大臣より難しい顔をしている人がたくさんいます。

何事も月日が経つとそれなりに解決していくのだと、肩の荷を降ろして心を気軽に物事を考えていくことも大切です。

日蓮聖人は冒頭の文のように、人の心がけがれれば社会や国土もけがれ、心が清くなれば、国も清く安穏になると云われています。一人一人の心の善悪が引き寄せるのだと。

「けがれ」とは汚れとも穢れとも書きます。「汚れ」とはよごれでもあります。目に見え、水で洗うように落とせます。「穢れ」とは内面的、精神的な汚れで永続しやすく目に見えません。禊（みそぎ）や祓い（お祓い）によって反省し浄化しなければなりません。

心の穢れは物の見方、考え方が自己中心に偏り過ぎ視野が狭まると膨らむのだと云われます。

コロナウイルス感染予防のため皆さんマスクをされていますが、マスクの顔が誰かわからないことがよくあります。目元を見れば誰かすぐ判別できると思っていたのですが、そうではなく、一部分ではなく無意識のうちに顔全体、体全体を見てその人だと判断していたのに気付きます。

相手の心も自分に関わる好き嫌いや感情に偏らず、心全体を冷静に見て判断することが大事なのです。

「穢れ」の字は、禾（のぎ）偏に「歳」と書きます。「禾」は稲のこと。稲のように成長し年老いて、心がけがれて純粋さを失い老化するという意味です。

人の心も自信を喪失したり弱気になったりすると本人の持っている気（力）が枯れる＝穢れるに通じてきます。死や疫病は古来より穢れとして塩による清めが用いられているのも、気が枯れることによる邪気を払いその人を守る意味もあるのです。人は多くの悩みで心がけがれます。あの人は粗暴だとか、温厚だとか言われるのは、心の内面の穢れが外面の汚れにも表れてきて評価されるのです。

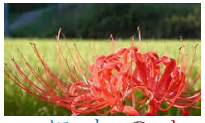
一人一人の心の悪が社会の荒廃を広げ、心の善が穏やかな社会を築いていくのだということです。「渡る世間に鬼はなし」と信じて助け合って穏やかに生きるか？「渡る世間は鬼ばかり」と疑って構えて生きるか？己の心の穢れが左右するのです。

人の心の持ち方によって本人の周囲への見方も違ってきます。好きでない人は気に入らない点ばかり目につき、好きな人は良い点ばかり印象に残り易いのです。豊かな自然の風景も、立ち止まって大自然の生命力と不思議さに気付く人もあれば、全く眼中になく、空を仰ぎ見ることもないという人もいます。人は案外見たくないことは見えていなくて、聞きたくないことは聞こえていないのです。

私利私欲や関心のあることに偏らず、人も環境も選別せず、現状の全てを受け入れるところからより高い幸せへの道が見えてくるのだと云われています。

今月は秋のお彼岸です。仏様は、悩みの日々を行き来しているこの世（此岸）の私達に、煩悩と迷いを超えた悟りの世界（彼岸）が向こう側にあることを教えています。次の六つの徳目を実践して真剣に彼岸へ至る道を求めて生きなければ魂（心）が真から安らぐ彼岸へ到達することはできないのです。

① 布施（ほどこし）―進んで善根を積む
② 持戒（いましめ）―心を清く正しく保つ
③ 忍辱（がまん）―怠らず素直さを忘れず
④ 精進（はげむ）―努力を重ね向上する
⑤ 禅定（おちつき）―心静かに己を省みる
⑥ 智慧（かしこさ）―物事の本当の姿を知る



彼岸の中日（秋分の日）は、昼と夜の時間が等しくなります。人生には明と暗も同じ重みがあるのです。「暗」は忌み嫌うのではなく、例え「暗」と思われる辛い時でも、字の如く神仏の光（日）に護られていることへの気付きが大切なのです。

秋の彼岸に咲く真っ赤な彼岸花。別名は曼殊沙華（まんじゅしゃげ）。法華経の序品第一に、お釈迦様が教えを説かれた時、教えを賛嘆して天上から降り注がれた花であるとあります。有毒の性を持ちながらも「毒を変じて薬となす」力があり、昔はお墓や田の畦道を守っていました。

花言葉に「再会」があります。私達の命もご先祖の命も、何時かは輪廻し新たな出会いがあるのです。

ご先祖の御霊への供養と感謝を忘れず、私達も彼岸の世界でご先祖と再会できるように、魂の修養の大切さに気付かせてもらうのがお彼岸なのです。

合掌

本興寺住職　中谷聰秀